

コース長挨拶	1
教職員から	2
学生から	3
卒業生から	4
2023年度の進路指導について	5
2023年度進路先一覧	5
2023年度人間情報工学コース日誌	6
2023年度受賞・表彰	7
人間情報工学コーススタッフ紹介	8
2024年度人間情報工学コース役割分担	8
編集後記	8

コース長挨拶

The "Big Rocks" of Life

水戸部 一孝

人間情報工学コースでは、“ヒトがヒトを思いやり、優しくできる”情報技術(IT)や人工知能(AI)の利活用を検討し、要素技術を共に研究開発するプロセスを通して、国際社会で活躍できる創造性を兼ね備えた人材の育成を目指しています。

工学分野のテクノロジーは日々進化しており、最新の専門知識を修得した理系国立大学の卒業生の皆さんは企業から引く手数多く、活躍のチャンスに溢れています。同時に、AI・データサイエンス、プログラミング、コンピュータ等の情報技術の基礎から、IoT、VRなどの応用に至るまで、あなたが社会に出るまでに理解し、修得したい専門知識も年々増加しています。そのため、理工系学部は、医学部と同様に6年制に限りなく近づいています。学部の4年間では専門知識と論理的な思考力を修得し、研究室での生活が主となる修士の2年間では研究を通じて多様な考え方とイノベーションを可能にする研究開発力を養います。もちろん、希望の会社に就職することがあなたのGoalならば学部卒でも十分可能かもしれません。しかし、プログラムを作成してネットから情報を収集・解析し、プレゼン資料を作成する仕事は、ChatGPTで代替できません。では、生成AIで代替できないスキルとは何でしょうか？会社に不可欠な人材、つまり、開発の中核を担う人材には、新たな概念を自ら獲得する能力とそれを活用して課題を解決したり、新たな価値を生み出したりできる修士以上の能力が期待されます。既存の技術を理解した上で、あなた自身で情報を生み出し、あなたのアイデアを具現化する能力を獲得するためには、自身の研究に興味を持って、夢中になり没頭する経験が役に立ちます。大学での学びを通して、本質を見極める力、多様な視点、そしてピンチをチャンスと捉える柔軟な発想力を獲得して、あなたの可能性を拡げていただくことを切に願っています。

最後に、あなたの秋田大学での日々を充実させるために、有名な寓話を紹介します。

「クイズの時間だ。」教授はそう言って、大きな壺を取り出し教壇の上に置いた。その壺に、彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。

「この壺は満杯か？」教室中の学生が「はい」と答えた。「本当に?」。そう言いながら教授は、教壇の下からバケツ一杯の砂利を取り出した。その砂利を壺の中に流し込み、壺を揺すりながら、岩と岩の間を砂利で埋めていく。そして、もう一度聞いた。「この壺は満杯か?」学生は答えられない。一人の学生が「多分違うだろう」と答えた。教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけた。「これでこの壺は一杯になったか?」学生は声をそろえて、「いや」と答えた。教授は水差しを取り出し、壺の縁までみなみと注いだ。彼は学生に最後の質問を投げかける。「僕が何を言いたいのかわかるだろうか」

一人の学生が手を挙げた。「どんなにスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込む事は可能だということです」

「それは違う。」と教授は言った。「重要なポイントはそこにはないんだよ。この例が私達に示してくれる真実は、大きな石を先に入れない限り、それが入る余地はその後二度とないということなんだ。」君たちの人生にとって“大きな石”とは何だろう、と教授は話し始める。「それは、仕事であったり、志であったり、自分の夢であったり……」「ここで言う“大きな石”とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君たちはそれを永遠に失う事になる。もし君たちが小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしたならば、君達の人生は重要でない何かに満たされたものになるだろう。」「そして大きな石、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果、それ自体を失うだろう。」(出典:「会社がなぜ消滅したか」、文庫版あとがきより、読売新聞社会部、新潮文庫、2001.9.1)

あなたにとって“大きな石”とは何でしょうか？それは、あなたが一生を通じて探し続けるものなのかもしれません。でも、ヒトの時間には限りがあります。人間情報工学コースでの経験が、あなたの“大きな石”の一つとなることを祈念しています。

学生時代のタイプを考える

藤原 克哉

ようこそ秋田大学へ。皆さんは日々いかがお過ごしでしょうか。「タイプ」とは、タイムパフォーマンスの略語ですね。費やした時間に対して得られた効果や満足度の比率のことで、Z世代が重視する価値観とされています。タイプについて色々な論評がされていますが、使い方によってはとても良い言葉と思います。特に学生時代をどのように過ごすかは、これからの人生の質や満足度にも関わる事ですので、大いにタイプに気を配って下さい。現在の平和な日本では、時間を過ごす方法にとっても多くの選択肢があります。その中で考えて欲しいのは、自分の時間を「消費」に使うか、それとも「生産」に使うかということと、そのバランスです。

消費とは、外部から提供されたものを利用することを指します。例えば、ソーシャルメディアやYouTube動画を見ること、ショッピングをすること、オンラインゲームを楽しむことなどがこれに当たります。消費は、一時的な満足感や快楽をもたらすことができますが、長期的な幸福や充実感には繋がりにくいとも言われています。生産とは、自らの能力や労力を使って新しい価値を創造することを指します。例えば、学びやスキルの向上に努めること、趣味で何かを創作すること、社会人なら仕事で成果を生み出すことなどがこれに該当します。生産は、自己成長や達成感をもたらし、持続的な幸福や充実感を得るための重要な要素と言われています。

では、皆さんは自分の時間をどちらに使っているでしょうか？消費が悪いということではなく、長期的には両者のバランスが重要であり、適切な割合で時間を使うことが必要です。しかし現代社会では、ソーシャルメディアやゲームなどの企業の多くが消費者にもっと多く消費してもらうことを目的に行動しており、無料コンテンツや、感情を刺激するアルゴリズムなどの手段を駆使して、皆さんを誘惑してきます。誘惑に弱い人は消費に流されやすい社会構造になっていることをしっかり認識し、賢い消費生産者になって、自分が本当に時間をかけてやりたい事は何なのか、しっかり考えて貴重な学生時代を送ることをお勧めします。追記：まだ先ですが卒業旅行は絶対行くべきです。旅行の計画も生産、何より思い出づくり。現地での様々な発見も生産的ですよ。

デジタル技術と災害復興

白井 光

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、キャンパス内は以前の活気を取り戻しつつあります。みなさんがマスクを外し、コロナ禍では見ることでできなかった表情を浮かべながら授業などに取り組む姿を見て、日常が戻ってきたんだなあ実感しています。その一方で、2024年1月1日に石川県能登地方を中心とする令和6年能登半島地震が発生し、みなさんに強い印象を与えたことと思います。本震災により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

最大震度7と非常に大きい地震に加え、津波の被害も発生したため、多くの建物で被害を受けました(全壊7704棟、半壊9467棟(消防庁発表:2024年2月16日14時時点))。震災からの復旧・復興計画を立案するために、発生したのがれきなどの災害廃棄物量を推定する必要があります。一般的に、直接訪問で調査した被災戸数の情報と1件ごとに発生する災害廃棄物量を用いて推定します。現在では、リモートセンシングデータ(人工衛星画像、ドローン画像)と画像処理技術を用いて広範囲の被災状況を判別し、災害廃棄物量を迅速に推定する手法の検討が行われています。

また、震災によって生活道路が寸断され、孤立した集落へ生活物資を運搬するため、崩落した道路の横を自衛隊の方々の方が徒歩で移動する様子が報道されました。徒歩での運搬のため、危険が伴い、時間もかかります。そこで、物資を搭載したドローンを孤立集落へ飛行させることで、安全かつ迅速な物資運搬が可能になります。安定した飛行制御を行うために、センサ、カメラの情報を基に機体を制御する組み込みシステムが使用されています。

このように災害からの復旧・復興には、デジタル技術が必要不可欠です。さらに、近い将来、南海トラフ地震などの大規模災害の発生が危惧されており、デジタル技術の重要性はますます高まっています。

本文では、災害分野について取り上げましたが、医療、物流、金融、教育など、様々な分野でデジタル技術が求められています。このように幅広い分野で求められている技術ですので、まずは、アンテナを張り、広い分野で情報収集するクセをつけてみてください。そして、興味を持ったことには積極的にチャレンジしてみてください。この経験は、みなさん自身の成長にきつとつながるはずで、数年後、人々の暮らしをよりよくなるデジタル技術を、みなさんと一緒に研究することを楽しみにしています！

行動に移す

2022年4月入学

加藤 あいか

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生の皆さん、充実した大学生活をお過ごしでしょうか。高校生や新入生の皆さんは、期待を膨らませながらも、大きく変化するこれからの生活や環境に不安を抱いていると思います。そこで、不安を取り除く手助けになるかはわかりませんが、私が大学生活を送る中で感じたことを紹介したいと思います。

まず1年生では、学部にとわられることなく気になる授業をとることをお勧めします。私も異文化交流や医療系、お化け屋敷の設計を考える授業など様々な授業を取りました。2年生になると専門的な授業が増えるので、他の学部・学科の人と一番交流ができるのは1年生の頃だと思います。分野が違って、多くの人の考え方や知識が得られるので貴重な経験になります。

次に、秋田大学の数理・電気電子情報学科では2年生でコースに分かれるので一緒に学ぶ人数も減り、先ほど述べたように、学習内容が専門的になります。人間情報工学コースではプログラミングはもちろん動画作成や情報倫理などが学べます。そもそも私が最初に情報を学ぼうと考えたのは、社会人は必ずパソコンを使っているイメージがあり、うまく使えるようになれば将来どこに就職しても困らないと思ったからです。そんな漠然とした理由でしたが、授業を通して、情報の中で何を学びたいかがより明確になった気がします。しかし、私は最初プログラミングに対して、授業内容が理解できなかつたり、周りの足を引っ張ってしまったらどうしようと、始める前から強い苦手意識がありました。それでも、先生やティーチングアシスタントの先輩がわかりやすく丁寧に教えてくださったおかげで段々と理解できるようになりました。また、開発言語によっても書き方が変わるので一概にプログラミングが苦手とは決められないとも思いました。自分と相性の良い言語は書き進めることができるので、とても楽しいです。ただこれは、自分が実際に学ばなければわからなかったことだと思います。

やはり最初は誰でも、失敗したり上手くできなかったらどうしようと考えてしまい、なかなか行動に移せないことがあります。大学に入ってからも、初めてのことばかりで不安や悩むことが多いと思います。しかし、大学生活に「正解」はありませんし、大抵のことはどうにかかります。大事なことは自分が学びたいかどうかだと思います。この4年間で是非やりたいことに沢山チャレンジしてください。

選択と経験

2021年4月入学

武藤 大道

新入生の皆さん、人間情報工学コースに配属された学生の皆さん、おめでとうございます。私の体験談と日頃考えていることについてお伝えします。

私は小学校4年生から吹奏楽を始め、現在は一般の吹奏楽団に所属しチューバを吹いています。そんな私が本コースを選択した理由に、「音楽」と「情報工学」に関わりをもたせたいという思いがあります。私がコース選択で悩んでいた時、職業選択の幅が広がり、プログラミングのスキルを身に付けられる強みがあるという部分に魅力を感じたのがこの人間情報工学コースでした。そんな中、音楽と関わりのない授業の中で、音楽指揮の認識技術に関する論文を読んだときに、音楽と情報のつながりを感じました。そして、小学生のときから音楽が身近にあった私は、情報の専門科目の学習を深めていくたびに、「音楽と情報につながりをもたせることはできないだろうか」と考えるようになりました。情報工学は個々の強みや趣味・嗜好などを活かすやすく、領域の垣根を超えて学ぶことができる分野であると私は捉えています。

さて、私は、教員免許取得のための勉強もしており、本年5月には教育実習に行く予定です。教職分野は、情報の専門科目とは一転して対人間の学習をするため、対コンピュータとは違った面白さがあります。全く違う分野の学習を両立させることは難しいと感じている人もいますが、逆を言えば、両方の分野に身を置くことで「飽き」を感じないという利点があります。情報も教職も自分の興味のある分野なので、楽しく勉強できていると思います。学びが深められる最大の近道は、「楽しさ・面白さを見出す」ことですね。単位は多くなりますが(笑)。1,2年生のうちは単位を多くとって損はないです。

令和7年度からは大学共通テストで情報が必須科目となります。すなわち、国全体で情報の人材を必要とすることが分かります。つまり、学校教育の現場でも情報分野に力を入れるのが重要視されるということです。大学になってから情報工学を専門で始めた学生と、高校のときから情報の知識やプログラミングスキルを身に付けて入学する大学生の間にはギャップが生じるはずですが、私は自身の専門性と教養を高める努力を継続していきたいです。

最後に、私の選択は一般的な大学生とは異なる部分が多くあったと思いますが、大学にはたくさんの選択肢があります。皆さんにとってこれからの生活が、秋田大学を選択して、人間情報工学コースを選択してよかったと思えるような日常になることを願っています。

念願は人格を決定す

継続は力なり

景山・石沢研究室 令和6年3月学部卒業
山下 茜音

「継続は力なり」という言葉がありますが、皆さんは、実際に続けたことで「力になった」と感じたことはあるでしょうか。私は続けることが得意で、10年続けた習い事や部活動もあります。そんな私ですが、大学生になり一人暮らしをして初めて気づいたことがあります。それは、「やりたくないことは続けられない」ということです。例えば、毎日洗濯をする、ご飯を食べたら食器を洗うといった家事や、日付が変わるまでに寝るといった生活に関わるのが大半です。人から怒られないことをいいことに、好きなことと天秤にかけて、当たり前のように好きなことを選択する毎日を送っていました。

しかし、大学4年生になったときに転機が訪れました。きっかけは、仲良くしてくださっていた先輩にもう二度と会えなくなってしまったことでした。笑うことが悪いことだと感じて、好きだった音楽も映画も全て受け入れられなくなりました。たまにしか回していなかった洗濯機は、稼働することがなくなりました。深夜にコインランドリーで洗濯・乾燥してやっと次の日に着る服があるといった日々を送っていました。食器も洗うことはなく、食器を使わなくても良い食事をして、何をしてもない夜を過ごして、朝になってからようやく眠りにつく毎日でした。

ところが、そんな無気力な生活に少しずつ変化が現れました。私の気力を取り戻してくれたのは、それまでやりたくないと避けてきたことたちでした。洗濯と食器洗い、そして睡眠。それを毎日続けることが、私の生きる力になっていきました。やりたくないことをやった自分を肯定することで、ポジティブな感情が生まれるようになったのです。もちろん、食器洗いは今でも一番嫌いな家事のうちの一つです。洗濯もボタンを押すくらいはやってもいいけれど、「勝手に干してくれたらいいのにね」と毎日思います。そして時には夜更かしをする日もあります。決して完璧ではありませんが、そんなやりたくないことも含めて「日々」なのかもしれません。部活動や習い事における日々の練習が試合に繋がるような分かりやすい繋がりではないですが、何事も続けていくことで力になる、続けることが力であることを実感しました。まさに「継続は力なり」です。

大学生活は、高校生活以上に色々なことに挑戦できる時間があります。授業や研究に加えて、サークルや部活動、さらにはアルバイトなど自分自身で選択して毎日を過ご

していくこととなります。やりたくないこともあるでしょう。想定外のことも時として起こります。そんなとき、続けてきたことで知らないうちに力になっていたことが、皆さんを助けてくれる日が来るかもしれません。

"研究の楽しさ"について

有川研究室 令和6年3月博士前期課程修了
藤原 稜大

大学4年生から大学院2年生にかけて、約3年間研究に取り組んできました。その上で、「研究の楽しさ」について執筆して欲しいとの依頼を受け、今この原稿を執筆しています。確かに、この3年間を振り返ってみると、研究は楽しかったように思えます。しかし、その楽しさを具体的に説明しようとすると、なかなか言葉が思い浮かびません。むしろ、考えれば考えるほどに、研究の過程での辛さや大変さが思い出されます。かといって、その辛さや大変さを乗り越えたとき、例えば、バグだらけだったプログラムが思い通りに動いたときや、行き詰まっていた研究を新しい視点から捉え直すことができたときに達成感や喜びを感じ、そこに、ある種の楽しさを見出していたのかというところでもなく。どうも研究の辛さや大変さから一旦は解放されたという感情の方が大きかったように思えます。

では、なぜ研究を楽しいと思えたのでしょうか。自分の行動を振り返ると、研究に取り組むことを楽しいと感じていなければできなかったであろう行動が思い浮かびます。興味があった映画を観ている最中でも、どこか頭の片隅で研究のことを考えてしまうことがあります。また、寝ようと思ったときに突然研究に関するアイデアが浮かび、プログラムを書き始めることもあります。さらに、論文の締め切りが迫っているにもかかわらず、より良い体験を目指して新機能を開発しようとすることもあります。これらの行動は、どれも後になって後悔することばかりです。お金を払って観た映画の内容が記憶にない。シンプルに眠い。新機能の開発に時間を取られ論文の提出がギリギリになる。こうした行動によって目に見える成果が出るのであればいいのですが、特に何も成果が出ないことの方が多岐に思えます。しかし、それでも、ついそのような行動をとってしまいます。一見するとデメリットしかないように見える行動であっても、辛い料理を食べた後にまた食べたいと思ったり、マラソンを走り終えた後にまた走りたいたいと思ったりするように、研究を行う意欲もまた、自然と湧いてくる感覚があります。

そう考えてみると、結局、研究の楽しさを具体的に説明することは難しいままです。ただ、研究という行いは、メリットやデメリットの範疇を超えて、なぜか夢中になってしまうものだと思います。これから本コースで学び、いずれ研究を行なっていく学生の皆さんの中に、ここで述べた"研究の楽しさ"らしきものに共感できる方がいると嬉しいです。

昨年度に引き続き、有川は人間情報工学コースの進路指導担当教員として、学生の大学院進学と就職活動をサポートしてきました。就職を希望する学生のうち、7月末には約90%が進路を決定し、8月末にはほぼ全員が次年度4月からの就職先を決定していました。このように就職活動をスムーズに終わられる状況は、人手不足とデジタル専門分野の人材不足が背景にあり、現在の就職市場の傾向は当コースの学生にとって有利な状況にあると言えます。

就職活動では、就職エージェントを利用して早期に内定を得たものの、条件が思ったほど良くない場合が後に判明し、再び活動を始める学生もいました。また、いわゆる「オワハラ」、すなわち内定後に他社への就職活動を中止させる圧力に直面した学生もあり、これは職業選択の自由を侵害する行為であり、決して許されるものではありません。

当コースの学部教育は、基本的な専門知識を学生に提供していますが、能動的で総合的な専門能力、つまり「研究力」を発揮させるには十分ではありません。ここで

重要なのは、大学院進学が学生のキャリアに与える影響です。実際、厚生労働省の統計によると、大学院を修了した学生は、40歳代や50歳代になると、学部卒業の学生と比較して、年収が約200万円程度高くなる傾向にあることが示されており、長期的な視点でキャリアを考える際の重要な指標となります。

このデータは、単に高収入を追求することの重要性を示すものではなく、専門性を深め、自己研鑽に励むことが、長期的に見て自分自身の職業人生を豊かにするための鍵であることを物語っています。大学院での研究活動は、専門性のさらなる向上だけでなく、将来のキャリアにおいても大きな価値をもたらすと考えられます。

短期的な視点ではなく、長期的な視点によるキャリアデザインを考えることで、就職に焦らず、急がずに、自己の専門性を高めることで、より良い将来を選択できるようになります。私たちは、学生一人ひとりが自分自身の能力と将来の可能性を最大限に発揮できるよう、引き続き支援していきたいと考えています。

表1 人間情報工学コース大学院生・学部生の進路状況(人数)

	大学院進学	一般企業	公務員	その他	未定	合計
大学院2年次	0	19	0	2	0	21
学部4年次	21	15	0	0	0	36

令和5年度卒業生 修了生進路先一覧

◆大学院博士前期課程修了生（21名）

〔先進ヘルスケア工学院・人間情報系も含む〕

〔就職〕（19名）

株式会社東芝、東芝システムテクノロジー株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社（2名）、キヤノンITソリューションズ株式会社、株式会社OKIソフトウェア、株式会社コナミデジタルエンタテインメント、富士ソフト株式会社、日本ビジネスシステムズ株式会社、DOWAホールディングス株式会社、株式会社トインクス、凸版印刷株式会社（2名）、日立建機株式会社（2名）、日本航空電子工業株式会社、日揮グローバル株式会社、日本光電工業株式会社、パーソルクロステクノロジー株式会社

〔起業〕1名

〔帰国〕1名

◆学部卒業生（36名）

〔進学〕（21名）

秋田大学大学院博士前期課程（20名）、九州大学大学院（1名）

〔就職〕（15名）

リコーITソリューションズ株式会社、エイデイケイ富士システム株式会社、NTT東日本グループ会社、TDK株式会社、東京ガスiネット株式会社、株式会社日立情報通信エンジニアリング、株式会社セブン&アイ・ネットメディア、ニッセイ情報テクノロジー株式会社、株式会社アット東京、株式会社T&Iシステムズ、株式会社両毛システムズ、KEIPE株式会社、株式会社内田洋行ITソリューションズ、株式会社イトーキ、トヨタ車体株式会社

令和5年度 人間情報工学コース日誌

2023
令和5年

- 4月 4日 在校生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 学部新入生・大学院新入生対面ガイダンス(数
理・電気電子情報学科126名、学部3年次編入2
名、大学院博士前期課程21名の入学)、学部2年
次・新入生遠隔就職ガイダンス
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 6日 初年次ゼミ「数理・電気電子情報学科」開始
- 4月 7日 授業開始
- 4月 14日 大学院博士後期課程個人面談1回目(6月20日
まで、担当:景山陽一教授、水戸部一孝教授)
- 4月 19日 大学院博士前期課程個人面談1回目(4月28日
まで、担当:景山陽一教授、水戸部一孝教授)
- 4月 21日 4年次個人面談1回目(4月25日まで、担当:有
川正俊教授、水戸部一孝教授、中島佐和子講師)
- 4月 24日 2年次個人面談1回目(4月28日まで、担当:景
山陽一教授、内海富博助教)
- 5月 8日 3年次個人面談1回目(5月29日まで、担当:有
川正俊教授、白井光講師)
- 5月 25日 メディカル・サイエンスカフェ In能代高校講演
(担当:景山陽一教授)
- 6月 13日 1年次個人面談1回目(7月4日まで、担当:景山
陽一教授、鄒敏助教)
- 6月 19日 理工学部編入学試験(一般)
- 6月 22日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当:全
員)
- 6月 25日 高大接続授業(担当:景山陽一教授、水戸部一孝
教授、有川正俊教授、石沢千佳子教授)
- 7月 3日 大学院理工学研究科博士前期課程入試(推薦)
- 7月 5日 秋田県立本荘高等学校出前講義(担当:景山陽
一教授)
- 7月 20日 北海道帯広柏葉高等学校進路相談会(担当:水
戸部一孝教授)
- 7月 21日 秋田県立能代高等学校出前入試説明会(担当:
藤原克哉准教授)
- 7月 21日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当:景
山・石沢研究室)
- 7月 22日 通信教育講座学内スクーリング(担当:水戸部
一孝教授、藤原克哉准教授、中島佐和子講師、齋
藤正親技術職員)
- 7月 24日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第
1回>講演会:R5人間情報工学コース、進路指
導に関する授業「大学院進学と就職活動に関し
て」、講演者:有川正俊教授
- 7月 24日 秋田県立新屋高等学校出前講義(担当:水戸部
一孝教授)
- 7月 25日 秋田県立能代高等学校アカデミックインターン
シップ(7月26日まで、担当:有川正俊教授、内
海富博助教、Lu Min助教、佐藤諒技術職員)
- 7月 29日 オープンキャンパス
- 8月 8日 秋田大学「デジタル技術・サマーキャンプ」(担
当:景山陽一教授、石沢千佳子教授、白井光講
師、鄒敏助教、伊藤悠大技術職員)
- 8月 30日 大学院理工学研究科博士前期課程入試(一般、
私費外国人留学生)(8月31日まで)
- 9月 15日 秋田県立秋田北高等学校2年数理探究クラス
サイエンス・ラボ(担当:景山陽一教授、石沢千佳
子教授、白井光講師、鄒敏助教)
- 9月 22日 岩手県立水沢高等学校コース見学(担当:景山
陽一教授、石沢千佳子教授、白井光講師、鄒敏助
教、伊藤悠大技術職員)
- 9月 25日 理工学部編入学試験一般入試2次
- 9月 29日 秋田県立秋田北高等学校1年数理探究クラス
サイエンス・ラボ(担当:水戸部一孝教授、藤原
克哉准教授、中島佐和子講師、齋藤正親技術専
門職員)
- 9月 30日 理工学部総合型選抜I
- 10月 4日 2年次個人面談2回目(10月20日まで、担当:景
山陽一教授、内海富博助教)
- 10月 6日 4年次個人面談2回目(10月10日まで、担当:有
川正俊教授、水戸部一孝教授、中島佐和子講師)
- 10月 11日 3年次個人面談2回目(11月1日まで、担当:有
川正俊教授、白井光講師)
- 10月 11日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当:水
戸部研究室)
- 10月 19日 秋田県立大館国際情報学院出前講義(担当:藤
原克哉准教授)
- 10月 19日 大館国際情報学院高校出前講義(担当:藤原克
哉准教授)
- 10月 24日 秋田大学大学講座「超スマート社会のプラク
ティス」手形コース①(担当:景山陽一教授)
- 10月 25日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第
2回>講演会:学部生と大学院生による就職活
動・進路選択に関する体験報告会、講演者:理工
学部数理・電気電子情報学科人間情報工学コ
ース4年次 長谷川真人氏、黒崎蓮氏、大学院理
工学研究科数理・電気電子情報学専攻人間情報工
学コース博士前期課程2年次 高秀千冬氏、目黒
大樹氏
- 10月 31日 秋田大学大学講座「超スマート社会のプラク
ティス」手形コース②(担当:石沢千佳子教授、中
島佐和子講師)
- 11月 7日 秋田大学大学講座「超スマート社会のプラク
ティス」手形コース③(担当:藤原克哉准教授、白
井光講師)
- 11月 15日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当:橋
本研究室、有川研究室)
- 11月 17日 北海道帯広柏葉高等学校進路講演会(担当:水
戸部一孝教授)
- 11月 19日 大学院博士前期課程個人面談2回目(11月27
日まで、担当:景山陽一教授、水戸部一孝教授)
- 11月 20日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第
3回>講演会(情報処理学会東北支部研究講演
会):サプライチェーン上のデータ活用による
DX推進とロジスティクス領域における脱炭素
アプローチ、講演者:ロジスティード株式会社
DX戦略本部CSイノベーション本部 半澤康弘氏
- 11月 30日 令和4年度大学院博士前期課程修士論文中間
審査(中間発表会)(12月1日まで)
- 11月 30日 情報処理学会東北支部研究会(12月1日まで)
- 12月 11日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第
4回>講演会:卒業生による進路に関する講演
会、講演者:セイコーエプソン株式会社 三浦信
氏、日本ビジネスシステムズ株式会社 中村悦郎
氏、トヨタ自動車株式会社 内堀雄太氏

- 12月12日 1年次個人面談2回目(12月14日まで、担当:景山陽一教授)
- 12月16日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第5回>プログラミングハッカソン、協力:444株式会社
- 12月18日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第6回>(講演会)情報処理学会東北支部研究講演会:超スマート社会における地方IT企業の実際、講演者:株式会社トラパンツ 代表取締役 長谷川敦氏
- 12月20日 大学院理工学研究科博士後期課程入試(第2次募集)(12月21日まで)
- 12月21日 大学院理工学研究科博士前期課程入試、外国人留学生(第2次募集)
- 12月26日 秋田県立本荘高等学校数理探究ゼミ(秋田大学連携授業)(担当:有川正俊教授、内海富博助教、Lu Min助教、佐藤諒技術職員)
- 12月26日 秋田県立湯沢高等学校出前講義(担当:石沢千佳子教授)



- 1月13日 大学入学共通テスト(1月14日まで)
- 1月17日 秋田大学教育文化学部附属中学校出前講義(担当:水戸部一孝教授)
- 1月19日 理工学部総合型選抜Ⅱ入試、理工学部私費外国人留学生入試
- 1月19日 大学院博士後期課程個人面談2回目(1月23日まで、担当:景山陽一教授、水戸部一孝教授)
- 2月6日 令和4年度大学院博士前期課程修士論文最終審査会
- 2月7日 令和4年度卒業課題研究発表会(2月8日まで)
- 2月15日 3年次個人面談3回目(2月20日まで、担当:有川正俊教授、白井光講師)
- 2月25日 一般選抜前期日程
- 3月12日 一般選抜後期日程
- 3月22日 秋田大学卒業式

受賞・表彰

学会賞受賞

- 令和 5年3月 情報処理学会東北支部学生奨励賞
八嶋 竜也(学部4年、景山研究室)
- 令和 5年4月 電気学会優秀論文発表賞
伊藤 悠大(博士後期課程2年、景山・石沢研究室)
- 令和 5年6月 日本素材物性学会令和5年度(第33回)年会優秀論文発表賞
李 凱迪(博士前期課程1年、景山・石沢研究室)
- 令和 5年9月 産業応用工学会全国大会2023学生賞
伊藤 希穂(博士前期課程2年、景山・石沢研究室)
- 令和 5年9月 ICISIP2023 Best Student Paper Award
雲 河晨氏(博士後期課程2年、景山・石沢研究室)
劉 亜儒氏(博士後期課程2年、景山・石沢研究室)
- 令和 5年9月 ICISIP2023 Best Presentation Award
菊地 亮太(博士後期課程1年、景山・石沢研究室)
- 令和 5年9月 ICISIP2023 Best Paper Award
巽 修英(博士前期課程1年、景山・石沢研究室)
- 令和 6年3月 情報処理学会東北支部奨励賞
藤原 稜大(博士前期課程2年、有川研究室)
目黒 大樹(博士前期課程2年、景山・石沢研究室)
下迫 響(博士前期課程1年、景山・石沢研究室)
- 令和 6年3月 令和5年度日本知能情報ファジィ学会東北支部研究会奨励賞
諏訪 雄大(学部4年、景山・石沢研究室)
須藤 悠介(学部4年、景山・石沢研究室)
- 令和 6年3月 情報処理学会第86回全国大会学生奨励賞
目黒 大樹(博士前期課程2年、景山・石沢研究室)
高橋 怜也(博士前期課程1年、景山・石沢研究室)

成績優秀表彰

- 令和 5年10月 令和4年度秋田大学学生表彰(学業奨励金)
網川 凌太(学部3年)
- 令和 6年3月 令和5年度情報処理学会東北支部学生奨励賞
宮古 菜々(学部4年、景山・石沢研究室)
- 令和 6年3月 令和5年度北光会賞
木内 匠(学部4年、水戸部研究室)
- 令和 6年3月 秋田大学学生表彰(優秀賞)
雲 河晨(博士後期課程3年、景山・石沢研究室)
劉 亜儒(博士後期課程2年、景山・石沢研究室)
菊地 亮太(博士後期課程1年、景山・石沢研究室)
巽 修英(博士前期課程2年、景山・石沢研究室)

人間情報工学コース プログラミングハッカソン

- 令和 5年12月 最優秀賞(第1位): 津留 威吹
優秀賞(第2位): 伊東 和磨
優秀賞(第3位): 加藤 真空

※受賞時の学年・所属

人間情報工学コース スタッフ紹介



教授 景山 陽一



教授 水戸部 一孝



教授 有川 正俊



教授 石沢 千佳子



教授 藤原 克哉



准教授 橋本 仁



講師 中島 佐和子



講師 白井 光



助教 内海 富博



助教 鄒 敏



助教 Lu Min



技術専門職員 齋藤 正親



技術職員 佐藤 諒



技術職員 伊藤 悠大



協力教員
准教授 横山 洋之



事務室
事務系スタッフ 佐藤 功子

令和6年度 人間情報工学コース 各役割り

- ◎コース長
- ◎就職担当(大学院および学部学生)
- ◎学年担任

	水戸部 一孝
	有川 正俊
1年次	Lu Min
2年次	橋本 仁(鄒 敏)
3年次	内海 富博
4年次	白井 光

編集後記

Information of 情報 Vol.34 はいかがでしたか？ 2023年度はオープンキャンパスも一部企画を除き全面的に対面実施となり、学外から多くの見学者が訪れ活気が戻りました。卒業や修了を迎えた学生の皆さんは、コロナ禍での制約の大きい大学生生活を経験したと思います。ですが、学生の皆さんから頂いた原稿からは、着実な成長と飛躍の兆しのみが感じられました。さまざまな制約を乗り越えて社会や大学院への門出を迎えられたこと、嬉しく思います。ご多忙の中ご寄稿くださいました皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。(編集担当:中島佐和子)